

リハビリテーション科学学位プログラム（博士後期課程）

Doctoral Program in Rehabilitation Science

- 博士（リハビリテーション科学）
- Doctor of Philosophy in Rehabilitation Science

人材養成目的 / Program Educational Objectives

リハビリテーション関係の研究者、専門職業人に対して、リハビリテーションの包括的基盤教育を行うとともに、国際的・学際的な研究の成果と方法論を習得し、他職種と連携して、職場や社会での諸課題について、科学的・実践的・開発的に解決し、社会に貢献する学際的な高度専門職業人や大学教員（研究者）を養成する。

養成する人材像	現職社会人が職場において遭遇し、かつ早急にその解決が求められている諸問題について、広い視野での対応と発展に必要な、総合的・包括的リハビリテーションに関する総合的な能力を有する人材を養成する。とくに、総合的・包括的リハビリテーション領域の中でも現場的課題の科学的解決に関わる実践的な研究能力・開発能力の高い高度専門職業人や大学教員などを養成する。
修了後の進路	本プログラム在学中の人材は大学教員や研究職として教育・研究分野で活躍している人も多い。本プログラム修了後の博士人材は、大学教員や研究職として教育・研究分野に転じる人も少なくないが、職場において指導的立場で活躍する人も多い。医療・保健機関、社会福祉施設、学校教育関係などで、高度専門職職業人として活躍することが期待できる。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士後期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士（リハビリテーション科学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	①新たな知の創成といえる研究成果等があるか ②人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	リハビリテーション科学基礎論、博士論文作成、学会発表など
	2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	①重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ②専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	リハビリテーション科学演習 I、達成度自己点検など
	3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	①異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ②専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができるか	リハビリテーション科学特論 I、学会発表など
	4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	①研究的に魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ②目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	リハビリテーション科学基礎論、職業リハビリテーション特論、TA（大学院セミナー等）経験、プロジェクトの参加経験など
	5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ②国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	リハビリテーション科学演習 II、国外での活動経験、外国人（留学生を含む）との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文など
	6. 研究力：リハビリテーション分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	①リハビリテーションに関する先端的な研究課題を設定し、その計画を他者に適切に伝えることができるか ②リハビリテーションに関する先端的な研究成果を、国内外の専門誌に掲載することができるか ③リハビリテーションに関する先端的な博士論文を完成させ、その成果を適切に発表することができるか	リハビリテーション科学特論 I、国内外の専門領域での論文発表、博士論文作成など

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	7. 専門知識：リハビリテーション分野における先端かつ高度な専門知識と運用能力	リハビリテーションに関する先端的高度な専門的知識を習得し、自らも発信できる能力を得られるか	リハビリテーション科学特別演習 I、各専門的な学会が開催する研究会への参加や研修会での講師など
	8. 倫理観：リハビリテーション分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	リハビリテーションに関する高度な研究能力、倫理観および深い倫理的知識を得られているか	リハビリテーション科学基礎論、APRIN など関連する内容の e-learning の受講など
学修成果の評価に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> - 学修成果の評価は「達成度評価表」に基づく達成度評価によって以下の段階ごとに学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を確認し、評価する。 - 1年次の春学期に実施する「研究計画発表会」について、発表抄録および発表内容に基づき、主指導教員およびその他の教員による研究準備状況の自己点検と審査および指導を行う。 - 1年次の秋学期に実施する「文献研究発表会」について、発表抄録および発表内容に基づき、主指導教員および副指導教員、その他の教員により、博士論文の理論的検討部分に関する自己点検と審査および指導を行う。加えて、指導教員が第1段階達成度審査を行い、学修状況の自己点検と審査および指導を行う。 - 2年次春学期と秋学期に行う2回の「研究経過報告会」について、各回の発表抄録および発表内容に基づき、主指導教員および副指導教員、その他の教員により、博士論文の実証的検討部分および総括部分に関する自己点検と審査および指導を行う。加えて年度末には、指導教員が第2段階達成度審査を行い、学修状況の自己点検と審査および指導を行う。 - 3年次春学期に行う「研究経過報告会」について、発表抄録および発表内容に基づき、主指導教員および副指導教員、その他の教員により、博士論文の理論的検討部分に関する自己点検と審査および指導を行う。 - 3年次には、予備審査会として、主査および副査2名が博士論文を査読するとともに、口頭試問において審査を行う。予備審査会に合格した場合には、続いて主査および副査3名（うち1名は、学位プログラム以外に所属し、かつ、博士論文審査に足る専門性を有すると教育会議により承認された者とする）が博士論文を査読するとともに、最終審査会を実施し、口頭試問において審査を行う。加えて年度末には、指導教員が第3段階達成度審査を行い、学修状況の自己点検と審査および指導を行う。 		

学位論文に関する評価の基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、リハビリテーション科学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。 2. リハビリテーション科学分野の国内外の発展に寄与するオリジナルな研究成果が学術論文として発表するのに相応しい量含まれていること。 3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。 4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な証拠に基づいていること。 5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等がリハビリテーション科学分野の博士論文に相応しい形式でまとめてあること。 <p>学位論文が満たすべき水準：主指導・副指導教員のいずれもが、上記の1～5を満たしていると判断できること 審査委員の体制：主指導1名、副指導3名 審査方法：博士論文、論文発表会、口頭試問により主指導・副指導教員が総合的に判断 審査項目：博士論文、論文発表会、口頭試問</p>
----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

リハビリテーションの4分野（医学的リハビリテーション、特別支援教育、社会リハビリテーション、職業リハビリテーション）にわたる高度な研究力、専門知識、倫理観とともに、学際的なリハビリテーションに基盤の置いた学際的かつ高度専門職業人とリハビリテーション専門職養成校等の高等教育教員等を育成するための汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。現職社会人に最適化したコースワーク・リサーチワーク複合型のカリキュラム・ポリシーに基づき、学位取得に至るまでの論文作成指導や学位論文審査などを柔軟かつ有機的に関連づけた指導を行う。

教育課程の編成方針	<p>学生の専門分野を軸として、関連するリハビリテーション分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するようリハビリテーション科学基礎論およびリハビリテーション科学演習、リハビリテーション科学特論を必修とするとともに、より広い関連分野についての知見の修得に資するよう、学術院共通専門基盤科目から1単位を履修することを推奨する。具体的な履修科目や副指導体制の配置は個々の学生の研究計画やキャリアプラン等を踏まえて決定する。</p> <p>原則として通算3年以上在籍する。リハビリテーション科学の概念的理解と学問的基礎を構築する必修科目6単位の履修と研究課題に即した選択性に富む選択科目4単位以上を履修する。指導教員および副指導教員が指定する科目を選択科目から4単位以上を履修し、博士論文作成のために必要な研究指導を受け、研修を実施すること。博士論文の予備審査および最終試験に合格する。博士論文審査においては、科学的論理性のみではなく、実践に即した課題設定や現場における有用性・有効性・新規性などを積極的に評価するものとする。最終試験に合格した者に、「博士（リハビリテーション科学）」の学位が授与される。</p>
学修の方法 特色的な教育	<p>1年次に研究計画発表会、博士論文作成に必要な文献研究発表会および文献リストの提出、2年次に経過報告会（1）、中間発表会、3年次に経過報告会（2）、に博士論文研究の進捗状況の報告を行う。あわせて、原則として各指導教員のゼミに参加するとともに、各報告会後には副指導教員の指導を仰ぐこととする。</p>

入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	本プログラムでは、現職社会人の立場と経験を活かしつつ、リハビリテーション科学に関わる実践的課題について、リハビリテーション科学の技術を駆使して主体的かつ意欲的に研究的探求を行うことができる人材を育成することを目的としている。特に、医療・保健機関、福祉施設・学校教育関係（特別支援教育を含む）、リハビリテーション専門職養成校、職業支援センターや障害者雇用企業、官公庁・行政機関などでの職務経験を有し、新しい研究創出と、実践臨床に高い関心を有する者が望まれる。
入学者選抜方針	原則として入学までに概ね2年以上の有職経験を有することを条件に、入学候補者の選抜は、外国語試験、口述試験及びその他の出願書類の審査結果を総合的に判定して行う。

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	<ul style="list-style-type: none"> - 所属年次以外の発表会への参加機会を供し、自身の研究体制を客観的に見直す契機とし、研究の深化を支援している。 - 指導教員を中心に全教員が、社会人大学院生固有の相談内容（仕事と学業の両立、子育て・介護等の家庭状況）について、個々に相談できる体制をとる。 - 社会人大学院生が、勤務と学習・研究活動の両立ができるように、データ解析室、大学院生研究室の環境を整える。 - 社会人大学院生にとって勤務に支障が生じないよう、集中講義に関しては原則的に土日に実施している。 - 論文投稿をはじめとする研究成果の総括の仕方や、修了後のキャリア形成の具体例などについて、他学位プログラムも交えて幅広い視点から紹介するFDプログラムを定期的で開催している（年2回）。
学生同士の交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 所属年次以外の発表会への参加機会を提供し、学年を超えた学生同士の交流機会を促進する仕組みを教育課程に組み込んでいる。 - 上記のFDプログラムの際に、相互に質疑応答ができる場を用意し、交流機会を創発する仕組みを設けている。
教員との交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 毎回の発表会において、学位プログラム担当教員全員が参加しており、意見交換などの機会を確保し、指導教員以外の教員との交流機会も提供している。 - 加えて、発表会後にも、副指導教員を中心に、全教員が、発表会後の事後指導に関与し、学生自身がスムーズに学習・研究活動を継続できるような機会を確保している。 - 毎年学生教員懇談会を開催し、学生からの意見を積極的に取り入れている。

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

リハビリテーション科学学位プログラム教員会議及びカリキュラム委員会において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証している。